

令和2年度 弘前市総合計画審議会 議事概要 (第3回)			
日 時	令和2年8月7日 (金) 14時00分～15時50分		
場 所	ヒロロ 4階市民文化交流館ホール	傍聴者	0人
出席者	委員 (15人)	森会長、今村委員、高島委員、鴻野委員、吉原委員、 淀野委員、崎野委員、大西委員、熊谷委員、清藤委員、 鈴木委員、小田桐委員、斎藤委員、成田委員、外崎委員	
	事務局 (7人)	企画部長、企画課長、企画課長補佐、企画課総括主査、 企画課主査、企画課主査、企画課主事	
	その他		
<b>会 議 概 要</b>			
1 開 会			
2 議 事			
(1) 総合計画施策の一次評価への意見に対する回答について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「①学び 1 地域を担う人材の育成 6) 感性を高め夢を広げる事業の展開」の定性評価の欄に、『真剣な大人』と子どもを出会わせる」とあるが、全ての大人が真剣なのであって、「真剣な大人」という表現を改めるよう検討いただきたい。</li> </ul>			
<p>また、「市民参加型まちづくり1%システム」補助金では市民が様々な事業を提案しているが、その一方で類似の事業を市が行う際には民間の業者に委託しているものもある。似たような事業を異なる主体が行うことは、裾野を広げていく手段の一つではあるが、今後は市民のニーズとのマッチングについてより一層工夫してもらいたい。</p>			
⇒「真剣な大人」の部分は、外部からいただいた意見を定性評価として採用し記載したものである。いただいた意見を踏まえ、表現については修正する方向で調整したい。			
<p>また、「市民参加型まちづくり1%システム」補助金を活用して事業に取り組んでいる各団体が繋がるよう、交流の場づくりを行っているが、ネットワーク化は重要であると認識しているので引き続き取り組んでいきたい。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「④健康・医療 1 生活習慣病発症及び重症化の予防 1) 生活習慣の見直し支援」における食育関連の各種事業について、受益者が子どもや親子など重複しているかと思うので、整理して予算規模を拡大するなど効果的な取組としていくことを要望する。</li> </ul>			

・「⑤福祉 1 高齢者福祉の充実 2) 介護予防と自立支援介護の推進」の高齢者ふれあい居場所づくり事業に関して、住み慣れた地域で「集うこと」が目的ではなく、集って何をするのかが重要。「市民参加型まちづくり1%システム」補助金では、高齢者が地域を超えて集まって活動することを支援している例もあるので、市でも動向を注視して、「地域」に捉われず、様々な支援をしてもらいたい。

⇒高齢者ふれあい居場所づくり事業以外にも、様々な事業を通じて集いの場、活動の場を増やしていきながら、多面的な支援をしていきたいと考えている。

・「⑤福祉 1 高齢者福祉の充実 2) 介護予防と自立支援介護の推進」の高齢者ふれあい居場所づくり事業に関して、高齢者がデイサービス等を利用しなくなった際の受け皿として、集いの場の存在は重要である。市が運営費を補助している団体以外にも、町会が集いの場を設けている例もあるが、そこも含めた拠点の数や利用者数を担当部署は把握できているのか。

⇒現状では、市が運営費を補助している団体が設けている拠点の利用者数実績しか把握していない。しかしながら、担当部署では町会などが独自に設置している集いの場を、市の高齢者居場所として登録していくことも想定しており、町会などが設置している拠点の数についてもある程度把握している。

・「⑦農林業 1 農産物等の生産力・販売力の強化 1) 日本一のりんごの生産力・販売力の強化」で、りんご公園まつり事業を通して「りんごの街・弘前」の周知を図るとのことだが、正しくは「りんご色のまち ひろさき」という表記ではないか。

⇒修正する方向で調整する。

・「⑩環境・エネルギー 1 環境保全の推進 1) ごみの減量化・資源化の推進」で、事業系ごみ対策として事業所が ISO を取得することについては、取得と取得後の運用も含めて費用や手間が相当かかるので、財力・体力のある事業所でなければ無理だと思う。

⇒確かに ISO は企業の負担が大きく難しい面があるが、より簡易で手間のかからない制度もあるので、ごみ減量化に向け様々なアプローチを研究していきたい。

・ごみ減量化に関連して、市内のごみ屋敷の現状はどうなっているのか。  
高齢化が進むとごみ出しも難しくなってくるので、その辺の支援も必要ではないか。

⇒市内には、ごみ屋敷はないわけではないが、最近は空き家・空き地の問題が顕在化している状況である。

なお、今年度から新規事業として、ごみ出しが困難な方の自宅を市職員が訪問し、ごみ出しを支援するサービスを開始しており、まだ試験的な取組ではあるが好評のようなので、担当部署ではこれを継続していきたいと考えているところである。

## (2) 地方創生関係交付金事業の評価について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

### ①「弘前版生涯活躍のまち推進事業」

・お試し居住できるのが2か所とのことだが、場所が限定的であり、少ないのではないか。今後、アクティブシニアのみならず全世代をターゲットとしていくのであれば、多様なニーズに応えられるよう、受入拠点は広範囲に多くある方が人を呼び込みやすいのではないか。

⇒KPI にカウントしている移住者は、2か所のサービス付き高齢者向け住宅に限らず、空き家・空き部屋など含め市内各所に移住しているので、いただいた意見について担当部署に伝える。

移住に際しては、市街地、郊外の両方のニーズがあることから、両方に対応できるよう取組を進めていきたいと考えている。

・アクティブシニアの中でも、例えば医療分野などの専門職を呼び込むことは視野に入れているのか。

⇒特定の職種に的を絞って移住施策を進めてはいないが、移住検討者や移住者がスキルを持っている場合には、それぞれにあった働き先や働き方を提案している。

### ②「地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業」

・「学生向け人材育成事業」の「弘前ポスター展」について、良い事業だと思うが、決算額が600万円とのこと、費用がかかりすぎではないか。市内2か所でポスターを展示しSNS等で情報発信したとのことだが、それほどの予算規模なのであればもっとPRの仕方や内容について工夫できるのではないか。

⇒プロポーザル方式で業者を選定したが、トップクリエイターの謝金や旅費、機材費などもあり、決算額が大きくなったというのが実情である。いただいたご意見は担当部署に伝える。

### ③「寝たきりゼロによる健康的で豊かな生活を実践するライフ・イノベーションの加速化事業」

・「先端医療研究開発プロフェッショナル人材育成事業寄付金」について、当地域の医療体制の維持・強化に貢献するとあるが、この交付金を活用して先端医療を学ん

だ弘大医学部の学生が弘前に残るかどうかは、予想できないのではないかと。「地方創生に効果があった」との評価だが、どういう理由でこの評価としたのか。

⇒当該寄付金のほかにも各種事業を実施しており、それらも含め事業全体を総合的に評価し「地方創生に効果があった」としたものである。

また、学生が地域に定着するかどうかについては、弘前大学内で学生を選考している過程において、寄付金を交付する当市の目的や狙いがしっかり理解された上で、学生を選考が行われ、海外派遣等されているものと考えている。

### 3 閉 会